

寺報

平成三十年十一月
第八十一号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一
電話〇二一九四一七六一〇五八

FAX〇二一九四一七六一〇一六九

山陰の妙好人

妙好人と呼ばれる人々がいらっしゃいます。妙好人とは、一般在家の人のうち、浄土真宗の篤信者の人を指す言葉です。この人々は、話された言葉や行動などにより、周りの人々から尊敬された人々とも言えます。

「妙好人」と呼ばれる方は、過去に沢山いらっしゃったようで、江戸時代に出版された「妙好人伝」には、百五十人以上の方々の名前があつたそうです。また、江戸時代だけに限らず、明治・大正・昭和、また現代にも「妙好人」と呼ばれる方はいらっしゃいます。

その中でもとくに有名な妙好人と言いますと、「赤尾の道宗」「因幡の源左」「石見の才市」「有福の善太郎」「讃岐の庄松」「六連島のお輕」などの方々です。このうち、源佐さん・才市さん・善太郎さんの三人の方々のお話を聞きに山陰へ行って参りました。住職仲間四人で、茨城空港から神戸空港へ向かい、三ノ宮でレンタカーを借りて鳥取へ向かいました。途中「鳥取砂丘」を見学して源佐さんの檀那寺「願正寺」さんへ参拝し御住職から源佐さんのお話を聞かせて戴きました。源佐さんは、江戸後期の天保年間に誕生し、十八歳の時に父と死別。この時父から言われた「親様を頼め」という遺言を受け、お寺に参り聴聞を始めたと言われております。

源佐さんの写真と像

才市さんは、若い頃は船大工をしており、晩年は下駄職人をしていました。才市さんは、昭和十二年に亡くなっていますが、彼は法話を聞いては聞いたことを手近にあつたカンナ屑などに書き留めたりしていました。才市さんが書いたそれは、「口あい」と呼ばれる詩で、後にノートに清書され、その数は七冊にもなり、一万首程あつたと言われています。しかしその多くは、戦争で焼失してしまい、現在残っているのは、四千首ほどです。その口あいを読んだ「北原白秋」は、「こんな歌は私には作れないなあ」と言つたともいわれています。

善太郎さんは、四歳で母親と死別したこともあります。若い頃は荒んだ生活を送り、「毛虫の悪太郎」と言われるほど嫌われていたそうですが、三十歳から四十一歳にかけて愛児四人を次々に失うと言う深い悲しみに出会い、四十五歳頃から命がけで仏法を求めるようになります。何でも無い毎日の当たり前のことにも「初事」と受け止め、うれしやと悦ばれたそうです。次のような詩が残されています。

「やれやれうれしや有難や 生々世々の初事に わたしや全体悪太郎であるけども おかげでこの善太郎」というてもらう やれうれしや この善太郎」

妙好人は単に篤い念佛ではありません。他力を理解し、阿弥陀仏との一体感を味わったので、衆生一切を攝取する阿弥陀仏の慈悲に完全に帰依している方を言います。



善太郎さんの像



才市さんの住んだ家

寺院巡り旅行の「」案内

来年の寺院巡りは、鎌倉方面に行くことにいたします。初日、横浜中華街で昼食をとつて戴きながら、茅ヶ崎市にある「来恩寺」さん参拝。こちらの御住職には、前住職が元気な頃に、当寺の報恩講にご出講戴き、法話のご縁を持つて戴いたことがあります。ハワイ開教の経験もあり、良い意味でお寺さんらしくないお寺さんです。

その後箱根へ向かい、温泉に入つてゆつくりと日頃の疲れを癒やしていただき一泊。二日目に鎌倉に向かい、藤沢駅から「江ノ電」に乗り、長谷寺へ向かいアジサイを愛でていただき、その後鎌倉駅まで再度「江ノ電」に乗つて向かいます。鎌倉駅で「江ノ電」を降りたら、小町通りを散策しながら、バスの待つ駐車場までプラプラと歩いて、帰路につきます。

会　　日　　程
宿　　泊　　三万円程度
参拝寺院　　箱根湯本温泉 天成園(予定)
來恩寺



四月六日(土)



七タコンサートより

第二回目の『お寺でライブ?』、今回も天下井朱美さんをお呼びしまして、『花祭りコンサート』として行うことになりました。どんなステージになるか、どうぞお楽しみください。

お寺でライブ?

終わった後に、みんなで食事をして解散します。



日　　時　　三月二十六日(火曜)　午前九時
場　　所　　大方運動広場
参　　加　　一千円
費

来年も「グラウンドゴルフ 正念寺杯」を行います。今年は、最初に二月で予定したら雪の関係で延期になつたこともありますので、二回目の今回は、三月に予定しました。是非沢山の方々のご参加をお待ちしております。

グラウンドゴルフ正念寺杯の案内

初参り



片岡美亜ちゃん

片岡龍也さん

片岡美紀さん



お寺に初めてきたお子様の写真を撮つて紹介させていただいております。皆さんのお子様・お孫様を是非この欄で紹介させてください。

仏具お磨きの様子

報恩講も近づき、聞法会員の皆さまで仏具のお磨きをしていただきました。

今日は、天気も良く風も無かったので、暖かいうちに終わりました。お陰さまで、お仏具もピカピカになり、気持ちよく報恩講をお迎えできます。



妙好人 才市の言葉

名号はわしが称えるじやない
わしに響いてなむあみだぶつ

如来さんはどこにある
如来さんはここにある
才市が心に満ち満ちて

なむあみだぶつを申しているよ

念佛は仏の念佛
仏が申す念佛
ただの念佛

わたしや用なし

ご恩嬉しやなむあみだぶつ

